

ごみ減量化大作戦

二酸化炭素の排出削減にも努めよう

食品ロスをなくそう

家庭から出る燃やせるごみの約半分が生ごみで、そのうち4分の1が食べ残しなど、本来食べられる「食品ロス」です。

福井県では、家庭や外食時に福井の食材をおいしく食べきり、食べ残しの減量化を進める「おいしいふくい食べきり運動」に取り組んでいます。勝山市でもこの運動に取り組み、食品ロスを減らしてごみの減量化に努めましょう。

食品ロス減量のポイント
・買い物前には
冷蔵庫の中を確認



賞味期限の表示

- ・量り売りやバラ売りの利用
食べきれないと思ったら「小盛で」
- ・「〇〇は入れないで」
週1回「冷蔵庫一層デー」
消費期限が近い食材を使い切る日を設定

賞味期限と消費期限の違い

賞味期限
おいしく食べられる期限。賞味期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるわけはありません

消費期限
この期限を過ぎたら食べないほうが良いという期限。



ぎゅっとひと搾り

生ごみの水切り もうあと一搾り

生ごみの約8割を占める水分を減らすことで、ごみの量もぐんと減ります。

三角コーナーや排水口にたまった生ごみは水切りして、ごみ袋に入れる前には、最後にもうひと絞りますように心がけてください。また、天日にさらしたり新聞に包んで乾燥させたりすることも有効です。

また勝山市では、「生ごみ処理機」や「生ごみ処理堆肥化容器(コンポスト)」の購入に対し、補助金を交付しています。



コンポスト

環境政策課(市役所2階)
☎88・8104

東日本大震災復興支援事業

今年も被災地の子どもたちが 勝山に遊びに来ます

被災地の児童に、勝山市内の児童との交流を通じて「恐竜王国福井 勝山市」を満喫し、楽しい夏休みを過ごしてもらうことを目的に、平成23年度から実施している被災地の子どもへの受け入れ事業を、今年も実施します。

受け入れ児童数

- ・岩手県陸前高田市
小学5～6年生 14人
 - ・福島県南相馬市
小学5～6年生 10人
- 日程▼8月1日(木)～5日(月)

- 1日 移動日
- 2日 カヌー体験・キャンプ等(北郷小学校6年生と交流します)
- 3日 恐竜博物館見学、化石発掘体験
- 4日 市内観光名所見学
- 5日 移動日

～みんなで考えよう
防災・減災～
南相馬市職員による講演会
とき▼8月2日(金)
午後7時～8時30分
ところ▼すこやか第1会議室
演題▼地震・津波・原発事故
南相馬市の現状と課題
講師▼南相馬市職員
西浦 武義 氏



昨年の交流の様子

未来創造課(市役所2階)
☎88・1115

みんなで守り、育てよう勝山市の医療!

総合医の立場から

第9回 インタビュー

二次救急医療機関の役割

二次救急医療機関として救急患者を受け入れており、盲腸の手術・軽微な外科的処置の患者やかかりつけ医となつている人を中心に救急対応をしています。重症患者の場合は、本人の意向と病気の専門性を考えて他の病院を紹介しています。そして、ある程度回復すると6～8割の患者は逆紹介で戻ってきて、また、かかりつけ医として治療を行います。日曜・祭日は、休日なので、救急の場合は事前に電話で問い合わせをしていただくようお願いしています。

乳がん検診について

外科医として乳がん検診にも携わっています。乳がん検診は、以前は触診検査だけでしたが、今はマンモグラフィ検査も同時に行っています。将来的にはマンモグラフィ検査だけでなくとも言われています。勝山市では毎年、検診で乳がんが1～2名見つかっているので、検診を受けるよう勧められています。



木下医院 院長 木下 元

総合医として

総合医として外科・内科などの診療を行っています。外来を受診する患者は、高血圧・糖尿病・高コレステロール血症いわゆる生活習慣病の人が約7割を占めています。病気を悪化させないために服薬は大事で、決められた量と回数を守り、また減塩など食事に気をつけ、30分から1時間速足で歩くなどの運動を行うことで、病気の悪化を防ぎます。

在宅医療について

外来診療を行っている時間帯には往診を頼まれても、患者のニーズにすぐに対応できない場合があります。市外には往診専門医がいますが、勝山市にはいません。国は在宅医療を勧めていますが、在宅で最後まで看取るためには、往診や介護保険制度の活用などが不可欠であり、現状では家族の協力やキーパーソンとなる人が必要です。

全国的な医師不足で、地方では医師を確保するのも難しく、日々の診療に追われる状況であり、在宅医療を推進するには医師数が充足しないと、まだまだ難しいと思われまます。

最後に

いつもと違う症状があったら、早めに受診してください。我慢し過ぎて重症になってから来る人もいますが、重症になる前の受診が大切です。

ホタル観察会

エコ協通信

6月22日(土)の夜、福祉健康センター「すこやか」そばの浄土寺川で、ホタル観察会が行われました。

この観察会は、わがまち魅力醸成事業新規チャレンジ部門の助成を受け、ホタルを通じて自然環境を考えていこうと、「浄土寺川のホタルを守る会」が開催したもので、市内の親子やスキージム勝山からのツアー客など約70人の参加がありました。

見頃の時間帯に観察

まず、会のメンバーがホタルの習性などを説明し、その後メンバーの誘導のもと、観察会場まで浄土寺川沿いを下つて行きました。

1日に3回あるという発光ピークのひとつ、8時半から9時過ぎごろに合わせて観察を行ったため、ホタルを見学している間に、ホタルの光る数が増えていくのが分かりました。ホタルが一齐に点滅しながら飛ぶ姿は、とてもきれいでした。

オスとメスの違い

ホタルは、草むらの上を飛び回っているのがオスで、草むらでじっとしているのがメスとのこと。説明者は、その場で捕まえたホタルを見学

者の手に乗せて、「オスとメスでは、発光器に違いがあります。」と話していました。県外からのツアー客の親子連れや女性グループが、手のひらの上で光るホタルに感動している姿が随所で見られました。

ホタルマップ

「浄土寺川のホタルを守る会」では、これらの説明も含まれているホタルマップも作成し、ご希望の方にお渡ししています。また、未来創造課にも置いてあります。

文章 エコ協広報部長 小玉理恵



未来創造課(市役所2階)
☎88・1115